

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.15 2006 年 5 月 30 日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース項目

### VTV ジャパン、伊アエスラ、日本国内にアエスラ販売会社を設立、アエスラ製品の販売拡大を目指す

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)と、イタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社は、日本国内にアエスラ販売会社「ae コミュニケーションズ株式会社」を設立(5月23日、東京都千代田区)。本格的な販売活動を5月25日より開始した。VTV ジャパン 代表取締役 栢野正典氏が、新設会社の代表取締役に就任。同時に、アエスラ社CEOのマルコ・ビエッツオリ氏も非常勤で取締役に就任する。

販売展開については、まず、VTVジャパンからアエスラ製品の販売委託を受ける。それを受けて、ae コミュニケーションズが本部となり、全国各県に平均1社の代理店を発掘、アエスラ販売網「ACN(アエスラ・コミュニケーション・ネットワーク)」を構築し、全国の企業や教育機関などに対してアエスラ製品の販売を行う形態をとる。

このACNは、従来の商品の販売権利を譲渡するだけの販売代理店とは違い、「ACN」の代理店に、マーケティングのノウハウ、ターゲット情報、テクニカルノウハウなどのビジネスパッケージを提供、ACN内で情報を共有するマーケティング・ネットワークという方法での販売展開を行う。

VTV ジャパンとアエスラ社は、2004 年 7 月に国内販売で業務提携を行い、VTV ジャパンが国内での独占販売を行ってきた。日本でのテレビ会議市場は、ポリコム、ソニー、タンバーク、アエスラの順で第四位となり、世界市場でのポリコム、タンバーク、ソニー、アエスラの順と同じく、市場の上位に入ってきているという。

そこで、国内でのアエスラ製品の販売を加速するため、アエスラ社とVTVジャパンで協議した結果、アエスラ専門販売会社を設立することにした。

今回の設立により、2010 年には、アエスラ製品の国内販売としては 20 億円、売上台数1万台、シェア15%を目指すという。

### 米ポリコム、新製品、ソフトウェアアップグレード等の発表

米ポリコム社から新製品、ソフトウェアアップグレード等の発表があったが、CNAレポート・ジャパンとしては、日本でのリリースについては未確認。

(1)「Sound Point IP430」。中小企業用の低価格IP電話機。SIP 2.0 に対応。SIP 2.0 に対応することにより、マイクロソフト LCS 2005 をサポート。IP 430 の LCD ディスプレイ上に LCS のプレゼンスを表示可能。ポリコムのアコースティック・クラリティ技術をサポート全二重の高品質な音声。IEEE 802.3af(イーサネットから電源を供給)、10/100Mbps のポート装備など。

(2)「Voice Station Conference Phone」。「300」と「500」をリリース。アコースティック・クラリティ技術をサポート全二重の高品質な音声。他のポリコム電話機種に比べ 33%小型化。360 度の無指向性マイク。500 では、Bluetooth ワイヤレス機能を搭載し、Bluetooth に対応した携帯電話やPCとワイヤレスで接続可能。

(3)映像コンテンツ(IPビデオ会議など)を記録し、ストリーミング配信、アーカイブするネットワークサーバー「Polycom Read Streaming Server(RSS) 2000」を発表。ハイデフィニション(HD)映像に対応した、ライブ及びオンデマンドで映像の配信が行える。再生は、マイクロソフトの Media Player カリアルオーディオ社の Real Player で可能。セキュリティ関係では、記録、視聴、端末、ウェブユーザーの識別のためのパスワードなどが提供されている。

(4)ビデオ会議システム VSX シリーズのバージョン 8.5 をリリース。(a) NAT/ファイアウォール用の ITU-T 標準規格 H.460。(b) 米の暗号規格「FIPS 140-2」。(c) MGC 多地点接続装置と VSX を組み合わせてエンドツーエンドで、G.722.1 Annex C(Polycom Siren 14 を標準化したもの。)をサポートした。14kHz の CD 並の音声品質。(d) ウェブブラウザから VSX へ HTTPS で接続。Telnet、FTP などで接続する場合のセキュリティを SSH でサポート。(e) マイク

ロソフト LCS とのインテグレーション。(f)ビデオパケットのオーバーヘッド部の最適化。MTU の調整が可能になった。

(5) ポリコム端末とマイクロソフトの Microsoft Office Live Communications Server と Microsoft Office Communicator とのインテグレーションで、VSX シリーズがバージョン 8.5、SoundPointS IP フォンが 2.0、V2IU がバージョン 6.5 に対応することにより、今までマイクロソフト Communicator 側のみプレゼンスが確認できたが、今回のバージョンアップによって、ポリコム端末側からも参照できるようになった。

(6) ビデオ会議システム VSX シリーズの SCCP 対応。シスコシステムズの Cisco Unified Communications platform で提供されている SCCP プロトコル ( Skinny Client Control Protocol ) に、ポリコムの VSX シリーズ (3000/5000/7000e/8000) が対応。シスコの CallManager バージョン 4.1 以上に対応。Cisco Technology Developer Program で認定された。

(7) Polycom RPX (RealPresence Experience)。専用室や 15 インチのモニター、インターネット接続、室内灯、テーブル、カーペット、防音壁などをそれぞれモジュールとしてパッケージソリューションとして北米にて発表。4人から28人部屋に対応。国際標準をサポートしており、Polycom RPX 間はもとより、他の標準のビデオ会議システムとも通信は可能。多地点機能では、36 拠点までの多画面分割。フルパッケージとして提供 (Polycom RPX204) した場合は、249,000USD。

### Wainhouse Research Bulletin (Vol.7 #19 May 18, 2006): コンシューマ向けのテレビ電話

Worldgate Ojo: Wainhouse Research として、Worldgate Communications 社からコンシューマ向けの Ojo (オージョー) テレビ電話機を実際に評価させていただく機会を持てた。このテレビ電話は、技術に疎い人を意識において設計されたという。つまり、非常にシンプルに使えるようになっている。

まず、自宅にあるルーターから RJ45 の IP ケーブルを Ojo に接続し、電源ケーブルをコンセントに入れる。そして、Worldgate 社のカスタマーセンターへ (普通の) 電話で電話し、IP 電話サービスの開始登録と問題なくネットワークに接続するかの確認を行う (その際はクレジットカードを準備)。サービスの価格は、月額 14.95USD。サービス登録を行うと、電話番号を IP アドレスへ変換するサービスの提供を受ける。

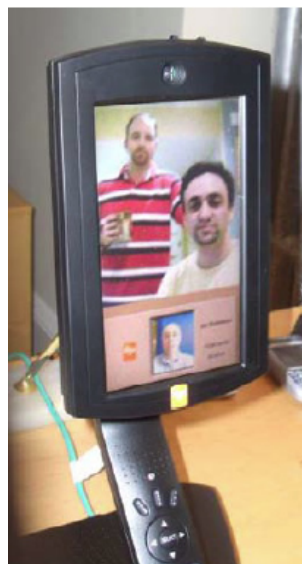
この Ojo のサービスは、多地点でのテレビ電話はできないが、1対1の Ojo のみのサービスとなっている。



この Ojo (写真左) は、通常の一般電話機に留守録機能がついたような製品。たとえば、電話帳機能、応答をビデオメッセージで行い、留守録を同じくビデオメッセージで行う。ビデオメッセージの留守録は、20 分程度可能。“Ojo の広告”で紹介されているとおりに使える製品となっている。

Ojo は、現在2機種が販売されている。ひとつは、900 モデル (筐体が黒色) で北米では 399USD で販売されている (現在 150USD のリベートクーポンも提供されている。) 機種で評価させていただいた。

(写真下: 小画面に Wainhouse Research 社の Andrew Davis 氏が見える。)



もうひとつは、1000 モデルで筐体はシルバー色。北米での価格は、900 モデルより 100USD 高い程度の値付けがされているが、この機種は、一般電話回線でも使える仕様となっているため、一般の電話機としても使える。

Ojo の使い方: 番号をダイヤルすると、その番号は、Ojo の IP 電話機の番号かどうかシステムで確認し、それが Ojo であれば、接続を開始する。もしそうでなければ、たとえば、“近所のピザ屋”に電話をするといった場合は、一般回線に接続して、ピザ屋に電話するようにシステムが動作する。簡単にダイヤルができる仕組みになっている。

### 【アンドリュースのコメント】

Ojo は、祖父母が使うことを想定したテレビ電話といっている。非常に簡単に使えるからだ。Ojo は、基本的に音声で着信を伝え、映像を使つての会話をする場合、カメラを起動させるためのボタンが画面上に表示させられる。非常にユーザーフレンドリーな仕組みで、自分の顔を見られたくないときは便利だ。しかし、この Ojo には、900 を評価させていただいた限りでは、ヘッドホン用のジャックや受話器のオプションがないため、プライバシー自体は“オプション”ではないようだ。

Ojo の映像の質については、思っていた以上に良かったが、“聞いたことがない”アスペクト比の5インチサイズディスプレイに慣れるという必要はある。また、音声については、多少“ザー”というホワイトノイズが入ることがあったが質は結構良かったと思う。Ojo は、Worldgate 社のオンラインあるいは、契約販売店などで購入ができる。

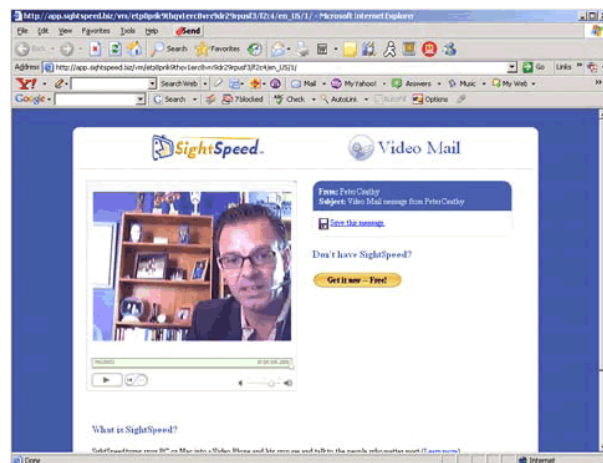
製品としては非常に面白いと感じた。簡単に操作できるという点やパフォーマンスにおいては非常に優れていると思う。

しかし、テレビ電話全般にいえることだが、「誰にテレビ電話をするのか。」という課題がある。Ojo については、Ojo サービスの加入者だけの間でテレビ電話ができるのみだ。祖父母と孫がお互いにテレビ電話をするとなると、Ojo が2台と、その2台分のサービス利用料の費用がかかるわけだ。確かに費用的には高くはないと思うが、祖父母と孫がお互いにテレビ電話するだけのために？、という気もする。なぜなら、Ojo のユーザー間でのみ使用に限定されているからだ。

**SightSpeed V 5.0 Beta:** SightSpeed V 5.0 beta(発売は今年 2006 年 7 月予定)のデモを見る機会があった。Ojo と同じくこの SightSpeed もサービスで提供されている。しかし、違いを言えば、SightSpeed のベーシックサービスは、無料であるということと、PC ベースであるということだ。

これは PC に慣れない人などにとってはあまりよい方法でもないような気がするが、SightSpeed としては、テレビ電話を使うこと自体をできる限り簡単にするために、ユーザーインターフェイスをシンプルにするという工夫を行っている。そして、ユーザーからは見えないところの話だが、その SightSpeed の音声と映像のコーデックは、xDSL などでもしっかりとリップ

シンクを効かせ、映像や音声の遅延を起こさない独自のコーデック技術を搭載している。(SightSpeed としては、将来 H.263 や SIP をサポートする予定だが、時期は未定。)



### ビデオメールを再生 (Flash ファイルのブラウザを使う)

SightSpeed は、buddy list (プレゼンス機能)とワンクリックコール機能をもっているが、テレビ電話通話は、SightSpeed 利用者間のみ。(使用には利用者登録を行う。無料)誰にテレビ電話をするかという問題はあるが、費用はかからず SightSpeed を使える点はいいかもかもしれない。ただ、テレビ電話を行うわけなのでウェブカメラが必要になる。その点費用が別にかかるということはあるが。

このサービスでは、Flash ファイルでビデオメールが送信できるため、受信者は、Flash ファイルが表示できるブラウザでそのビデオメールを見ることができる。(写真上: 同社の CEO Peter Csathy 氏から送られてきたビデオメールを再生しているところ。)。その他では、ビデオブログ記録、コミュニティーコール機能などがある。ビデオメールは、SightSpeed のストリーミングサーバーを使い再生を行うため、ビデオメールのファイルをメールに添付して相手に送るという形ではない。多地点のテレビ電話(4人まで)を行いたい場合は、月額 5USD、年額 50USD がかかる。

予定されている SightSpeed 5.0 は、一般回線への接続サービスも含む。これは、Skype-In や Skype-Out と同様なサービスとなる。あるいは、PC から PC への音声のみの通話サービス。さらに、相手のステータス、プレゼンス、ワンクリック接続ボタンなどのコンタクトリスト。さまざまな機能や性能を追加あるいは強化しながら、たとえば H.263 の提供やファイアウォールとラバーサル(越え)の機能も提供する

予定。

この会社が取ろうとしているビジネスモデルは興味があるところ。MusicMatch 社からこの会社の CEO になった Csathy 氏の考えとしては、まず無料サービスでできる限りの多くのユーザーを獲得することにより、そのうちの数パーセントに有料ユーザーになってもらうということで収益を確保していきたいという。MusicMatch 社は、同じようなビジネスモデルを取り顧客を獲得、そして Yahoo! に買収される前には、6000 万 USD の売上げを上げた会社になった。



コールコントロールタブ



一般電話へのコールする場合の画面

SightSpeed の事業展開としては、まず Creative Labs (ウェブカメラ関係) 社や Sonic Solutions (Roxio 関係) 社とパートナー関係を提携し、それらの会社が持つ数百万の顧客へリーチすること、あるいは、ケーブルインターネットの事業者とでは、その会社のブロードバンドサービス利用者へ付加価値サービスを提供することだ。これは、まさしく、“数獲得ゲー

ム”だ。

しかし、過去の同様な製品とは違い、SightSpeed は、コンシューマ向けのテレビ電話としては、プライスパフォーマンスと簡単な操作性を天秤にかけた場合ちょうどバランスの取れたところで、サービスを提供しているような感じがする。そうとは言え、利用者の 30% は、中小企業のユーザーという。。



Wainhouse Research, LLC.

<http://www.wainhouse.com>

Videoconferencing Insight 誌(16 to 22 May 2006 号) : 豪クイーンズランド大学の COH で開発された、ソニーの PCS-11P ビデオ会議システムを装備した ROY 歩行ロボット、Gladstone 病院の子供の患者を遠隔でケア

ROY という名の歩行ロボットは、クイーンズランド大学 COH (Centre for Online Health) とブリズベン国立小児病院と協同で開発された、移動可能なポータブル双方向オンライン健康管理システム。ROY は、Gladstone 病院の小児科病棟で活躍している。

COH のリサーチディレクターである Richard Wooton 教授によると、「専任の小児科医の採用がままならないという事で、テレビ会議を使って何かできないかという打診が、2004 年頃、Gladstone 病院からあった。」という。

「テレビ会議システムの装置は、そのままだと子供が怖がるかもしれないので、その装置を何か“ドレスアップ”みたいに施して、子供が簡単にコミュニケーションできるようなものができればと思った。最初に思いついたのは、Doctor Who Dalek (1960 年代のイギリスのサイエンスフィクションのドラマ番組) の形だが、だいぶ古いので今の子供達は知らないで、スターウォーズのロボット風にした。」

VG Tech Service 社の Ken Goold 氏が設計。ROY は、ソニーの PCS-11P を装備(編集長橋本補足:ヨーロッパ使

用はPALのため、Pが語尾についている。)。21インチのスクリーンを、ロボットの頭として、また、カメラをその上にのせた。

このシステムでは、ロボット ROY を操作するオペレーターが専門医顔をズームシアップで、ロボットに搭載されているスクリーンに表示させ、その専門医と子供達との間で、リアルタイムで映像を使ったコミュニケーションが行える仕組みだ。通常は、遠隔の専門医とコミュニケーションするという場合は、テレビ会議システムが設置された専門の部屋へ行き、そこから専門医とテレビ越しにお話をしたりすることが多いが、このROYを使えば、移動式なため患者の子供のベット脇へ簡単に移動し、そこから映像でのコミュニケーションがワイヤレス無線で行える。



ROY(写真左)の高さは、約2メートルで、ワイヤレス無線での操作なため約100メートルの範囲内を移動できる。また、大型バッテリーを搭載しているので1日は保つ。ROYのテレビ会議は、256kbpsのIPワイヤレス接続。COHが加入しているブロードバンドサービスを使ってこのワイヤレス環境を構築した。

ROYの開発は、約6ヶ月かかったが一昨年の12月に納品されたという。Wooton教授は、「搭載のカメラは、ズームインが行えるため、たとえば子供の喉あたりもクリアに見える。使用技術においても、以前の方法よりも今回の方法がより良いという評価を医師よりいただいている。」と導入後の反響はよかった。

引き続き今後12ヶ月間のパイロット運用を通して、同規模サイズの医療機関でも導入できるように、最適な運用モデルを示すことができると考えている。医療関係者は今回の運用に関心をもっており、大規模病院の専門医が、遠隔から必要な場所へこういった映像によるコミュニケーションサービスを提供できないかと検討しているようだ。

Gladstone病院院長であるRobyn Goffe氏は、医療現場の人材不足について懸念している。「地域の医療機関は、専門医不足について深刻な問題に直面している。ROYみたいな、遠隔操作のロボットは非常に役に立つと思う。これからいろいろな可能性を探っていきたいと考えている。」

COHは、遠隔小児医療システムの開発で先端を行っている。医療やそれに関連する教育情報について、テレビ会議、電話、FAX、メール、インターネットなどのツールにて提供されている。

今回のCOHのプロジェクトを通して、子供に対して2,000以上ものカウンセリングがテレビ会議を使って行われた。COHでは、内分泌系、皮膚科、癌科、歯科矯正、消化器系、神経系、小児外科などの医療サービスを提供している。



## Videoconferencing Insight

<http://www.vcinsight.com>

### 英テレビ会議専門誌 Videoconferencing Insight誌、創刊10周年を迎える

1996年5月31日に創刊したイギリスのテレビ会議専門誌 Videoconferencing Insight誌は、2006年5月29日号で10周年を迎えた。当初は、月刊毎月15日発行で年間購読料が500USD(発展途上国割引あり)、25ページ程度の紙媒体で発行されていたが、2002年9月から現在のウェブサイトでの電子媒体にかわり無償にてニュース配信をおこなっている。

編集長はロンドン在住のリチャード・ライン氏。国連に21年間勤務後同誌発行を始めた。国連時代にテレビ会議とのかかわりもあった。紙媒体の時代はニュース記事以外にも特にユーザー事例を毎号8-10程度紹介していた。

ライン氏としては、業界の認知度をより高めるためには、ユーザー事例を紹介することは非常に重要だという考えがある。Videoconferencing Insight 誌の大きな特徴の一つだ。

また、国連での経験を生かして、関連情報はイギリス、ヨーロッパだけでなく世界各国のニュースもワールドワイドな視点で掲載してきた。英語は非英語圏の読者を意識して平易な単語と文体でかかれている。

Issue No. 99/10 *See page 12-13* 15 October 1999

# Videoconferencing Insight

The monthly newsletter for managers and users of videoconferencing

Copyright by IMP Publications; All rights reserved.

## Telecom '99 shows that mobile devices will be the key market driver over next 4 years

Telecom '99 and Inter@ctive '99 organised by the International Telecommunication Union (ITU) in Geneva from 10 to 17 October was a magnificent event and a good show piece of modern telecommunication technology.

The Palais Expo where the exhibition was held also houses the Geneva Motor Show. It can house stands three floors high and the main industry players compete to have the best stand, sparing no expense in the process.

Estimates were that \$2,500 million was spent during the 8 days. So who in the end benefited from this extravaganza?

That sum would build splendid telecom networks for about half a dozen small developing countries; but instead all this money went up in smoke or expenses.

The delegates from the world's poorer countries were there and discussed their goals in the Development Bureau side of the Forum, a typical UN conference event organised in a seminar format.

It is difficult to give everyone their turn to speak and still avoid duplication. So perhaps the way the Forum is organised needs re-thinking before the Telecom event convenes in Geneva in the year 2003. (Berlin did not win the final selection to the regret of many).

If you need a hotel room for 2003 in Geneva rather than Lyon, then book now. BT and IBM had their reasons for not being there this time.

In this issue, we discuss the major trends in telecommunications that stood out clearly. The consensus was that by 2003 or 2004, there will be more mobile phones than fixed line connections, and more mobile wireless Internet access devices than PCs.

And although the experienced hands cast some doubt on the capability of the next generation wireless networks to deliver the full 2 Mbps that is promised, there surely will be enough bandwidth to carry videoconferencing at 384 kbps. (See pictures on page 12-13)

Contents	
	Page
<b>8 Application Stories</b>	
Largest H.323 IP multipoint conference held over Internet2	2
Motion Media's VC for the Deaf	3
Telemedicine used in Venezuela	4
Courtauld's uses VC for design	5
Judges in Wales use a VC link up	5
VCON over IP is chosen by Health Sciences at the Univ of S. Florida	6-8
ViewPoint VBK for Pershing, UK	9
Fachhochschule Esslingen VC link	9
<b>Feature Articles</b>	
Telecom '99 in Geneva attracted 1100 exhibitors, 180,000 visitors	10
Concept mobile phones for videoconferencing on 3G networks	11-13
3rd generation mobile networks	14
TeleCon West, Anaheim, preview	16
<b>New Equipment/Software</b>	
RADVision small memory H.323	17
VTEL launches new Galaxy range	18
Polycom's rack-mounted VS4000 and new ViewStation FX	19
Accord enhances the MGC-100	20
Barco's conference wall display	21
<b>Industry News</b>	
TANDBERG buys H.323 developer	17
Automated conferencing service	21
VideoServer re-born as Ezenia!	22
Corporate financial results	23

Published in the UK by IMP Publications  
ATM House, 28 Roman Road, Hove, East Sussex, BN3 4LA, UK.  
Fax: 44 (0) 1273 381319  
Web Site: <http://www.vcinsight.com>

Annual subscription by air mail:  
Europe and UK - Euros 480 or £300;  
Outside Europe including USA - US\$500.  
Developing Countries - US\$200  
Education, Telemedicine - special rates

紙媒体時代のもの（1999年10月15日号、日本サイズでいうところのA4サイズ）

ちなみに、1996年創刊号は、ピクチャーテル（現在ポリコム）が、ISDN対応のPCテレビ会議システム「Live200p」を発売、インテルのPCテレビ会議システムProShareと競合。マイクロソフトのNetMeetingの初期バージョンがリリース、VideoServer社（現Ezenia!社）がMultimedia 440 Conference Serverをリリースなどのニュースがレポートされた。

また、今回の記念号では業界関係から17名のお祝いの言

葉が掲載されている。CNAレポート・ジャパン編集長橋本もそのうちの一人に入れていただいた。

「Congratulations. I started reading your newsletter after we met at TeleCon 2000 in Anaheim, California. I still have all the copies of the newsletter in my office and I will keep them for good. VC Insight has contributed to the recognition and growth of the conferencing industry to a great extent. Thank you for the excellent work done over the past 10 years. (10周年おめでとうございます。あなたと私が初めてお会いしたのはカリフォルニアアナハイムで開催された TeleCon 2000 の時でしたが、その時以来私は Videoconferencing Insight を購読させていただいておりますし、全てそれらは私の事務所に今もあり、今後一生私としては大事にとっておきます。Videoconferencing Insight は、今まで業界の認知と市場の成長に大きく寄与したと思っております。この10年間の功績はすばらしいものがあります。)

Keisuke Hashimoto, Founder, CNA Report on the Conferencing Market, Tokyo, Japan and Conferencing Market Analyst, Japan]

## Videoconferencing Insight

<http://www.vcinsight.com>

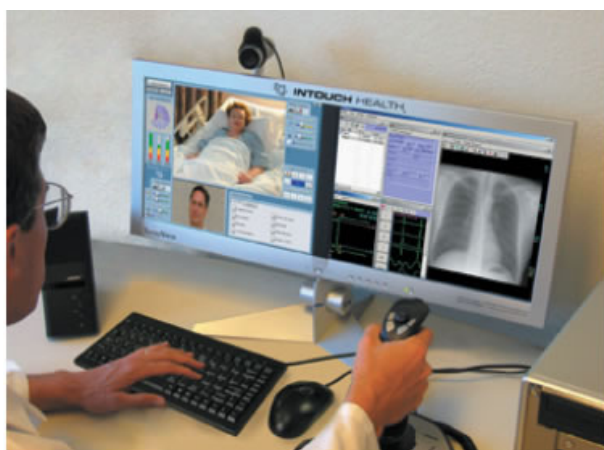
## Electronic TeleSpan 誌: Intouch Health 社、移動型映像コミュニケーションシステムを使った医師と患者との回診

先進的なアプリケーションとして、映像コミュニケーションを使った医療現場での使われ方がある。たとえば、院内のそういった医療現場で活躍しているのは、テレビ会議ではなく、何か診療状況について問題が発生した際に、患者を診たり、患者のケアについて迅速に対応したりすることを可能にする、ロボットだ。

2003年以降、米Intouch Health社は、医療現場への「リモート・プレゼンス・システム」を提供している。「RP-6」、「RP-7」という製品をペアに設置して使うものだが、我々の会議システム業界の言葉で言えば、「テレビ会議システム」と「医療用遠隔診断ツール」とでも呼べようか。

このペアの装置は、その装置のうちのひとつ「RT-7」は、

つまり移動式ロボットだが、院内を移動し、患者の状態を調べる。無線 LAN の IP によって移動式ロボットが、患者のベッドの近くまで動き、遠隔で医師あるいは看護師が患者と対話ができる。そのため、通常の回診以外にも患者と対話し、健康状態をより迅速に、かつ頻繁に確認することができるようになる。

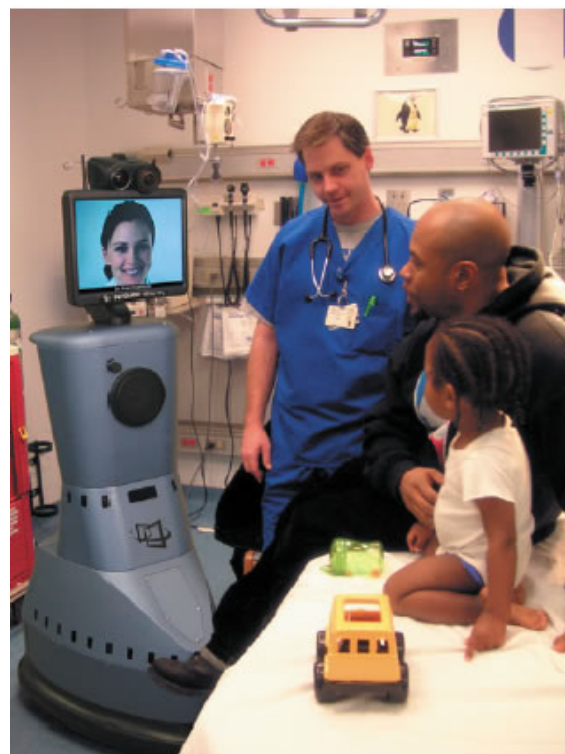


Intouch Health 社のプロダクトマネージャー Courtney Knight 氏によると、「その装置にはプラズマディスプレイが搭載され、それには、遠隔の医師が表示され、医師からは患者の様子が見え、聞こえ、そしてそばにいるかのごとく対話が可能になる。」と装置の特長を述べる。

RP-7 は、カメラも搭載しているが、患者の人体やベッド脇にある医療機器やモニター類から心拍数の状態を確認したり、照明装置を見たりなどが医師から可能だ。この RP-7 は、ホロノミック・ドライブ・システムをベースに設計された移動方式で医師が、その RT-7 を遠隔操作により院内を動かすことができる。また、そのシステムは、「SenseArray System360 (センス・アレーシステム)」を搭載しており、障害物などへの

衝突を未然に防ぐためのセンサーがその“ロボット”の腰回りと足下あたりに装備されている。そのため、遠隔操作をおこなう医師は、衝突前に未然にその状況を把握できるシステムとなっている。

このセンサーはある意味で、カメラと併せてより視界を広げるために、追加される赤外線による“ロボットの目”でもあるので、カメラと赤外線センサーにより移動時の衝突を防ぐことが可能。



そのロボットに対して、そのロボットをコントロールする側 ControlStation(コントロールステーション)のユーザーインターフェイスでは、ロボットが移動する位置とその周りの障害物との位置関係を表示。ロボットを遠隔制御する医師は、その状況を把握しながらロボットの操作を行う。ロボットは、車輪で移動するというよりは、球形のボール3個を使うことによって移動性を高めた。

北米では、約 20 以上の病院で約 60 セットのリモート・プレゼンス・システムが稼働しているという。

#### 【エリオットゴールドのコメント】

過去の Electronic TeleSpan ニュースで、医療現場で勤務する人材不足については度々言ってきた。Courtney

Knight 氏が取材後私に送ってきたメールによると。

「米国病院協会(American Hospital Association)の 2001 年に実施した病院への調査報告によると、89%の病院では、看護、レントゲン、薬剤、医療技術、セラピー、医師などの人材不足が深刻化してきているという。医療職種局(Bureau of Health Professions)によると、医療現場にて働く人材の数は、2000年から2010年の間に530万人へ増加が見込まれるが、既に現在40万もの看護職種に対する人材不足問題が起こっている。この人材不足の数字は、2010年には100万に増えると予想されている。人材不足は医療現場に深刻な影を落としつつあるのが現状だ。」

この会議システム業界が提供する技術が、こういった医療現場で役に立つ可能性を見せているのではないかと。



**TeleSpan Publishing Corporation**

<http://www.telespan.com>

## セミナー・展示会情報

### HP World Tokyo 2006

日時:2006年5月30日(水)-6月1日(木)  
会場:六本木ヒルズ グランドハイアット東京  
主催:日本ヒューレット・パッカート株式会社  
詳細:

[http://h50146.www5.hp.com/events/hpworld/2006/?jumpid=ex\\_hphqajp\\_JPHPW2006/JP613000499131/dm\\_marcomurl/hpworld/06top](http://h50146.www5.hp.com/events/hpworld/2006/?jumpid=ex_hphqajp_JPHPW2006/JP613000499131/dm_marcomurl/hpworld/06top)

\*北米で発表されたHPのテレビ会議システム「Halo」のショートセミナーやデモ DVD の上演が両日午後に行われる予定。

### <日中同時開催> 中国 IT セミナー2006 ～ 中国市場で成功するための Communication & Security ソリューション～

日時:2006年6月2日(金) 15:00～  
会場:KDDI 株式会社 20F 大会議室  
(東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー)  
主催:KDDI 株式会社、ソニーマーケティング株式会社、日本ヒューレット・パッカート株式会社

詳細:

<http://www.sony.jp/products/Professional/index/information/20060501.html>

### IP-TV 会議システム トップ3メーカー 集結」セミナー

日時:2006年6月2日(金)13:30～(受付13:00開始)  
会場:株式会社大塚商会 本社ビル 3F セミナールーム  
主催:株式会社大塚商会  
協力:ポリコムジャパン株式会社/タンバーク日本支社/ソニーマーケティング株式会社  
詳細:<http://it.otsuka-bs.co.jp/otsuka/event/bb0602/>

### Video-IT セミナー2006 『最新!映像活用システム事例紹介 10選!!』

日時:2006年6月2日(金)  
第1回 13:00～15:00/第2回 16:00～18:00  
会場:株式会社アイ・ビー・イー デモルーム  
WebVicon「Web 会議システム プリインストールサーバ」、EZ プレゼンター「マルチメディア・コンテンツ自動作成システム」など。  
詳細:  
[http://www.mpeg.co.jp/event\\_seminar\\_campaign/event\\_seminar/index.html#videoit](http://www.mpeg.co.jp/event_seminar_campaign/event_seminar/index.html#videoit)

### Web 会議システム & インターネット VPN 活用による経費削減セミナー

日時:2006年6月2日(金) 15:00～17:00  
会場:NEC ネクサソリューションズ  
ネクサソリューションプラザ  
東京都港区三田 1-4-28(三田国際ビル1階)  
主催:NEC ネクサソリューションズ株式会社  
共催:日本電気株式会社、NECシステムテクノロジー株式会社  
詳細:  
<http://www.nec-nexs.com/news/event2006/0602.html>

\*CNA レポート・ジャパン編集長橋本もこちらのセミナーで講演させていただくことになりました。  
導入、システム、運用面から見たテレビ会議と比較しての Web 会議の特徴、市場トレンド、日米の違い、利用用途のトレンド、成功企業の方程式、ピラミッドループの構築、欧米アジア日本の導入理由比較、製品導入ポイントなど。

## 編集後記

来月号では、展示会レポート、プロダクトレポート、業績発表、あの頃の業界キーマンなどを予定しております。今号お読みいただきましてありがとうございました。

編集長 橋本啓介